

〈博士前期課程〉

専門（共通）

問題 1 ①～⑤の看護理論家について、関連する理論を選択肢 A～E から選び、その記号を記入しなさい。（配点 15 点）

- ① ミルトン・メイヤロフ
- ② マール・H・ミシェル
- ③ シスター・カリスタ・ロイ
- ④ ジーン・ワトソン
- ⑤ ヴァージニア・ヘンダーソン

選択肢

- A ニード論
- B ヒューマンケア理論
- C ケアリング看護論
- D 不確かさ理論
- E 適応理論

問題 2 看護における Evidence-based practice (EBP) における「三本柱」に該当しないものはどれか、1 つ選びなさい。（配点 5 点）

- ① 利用可能な最良のエビデンス
- ② 医療職の個人的意見
- ③ 患者・家族の選択
- ④ 看護師の臨床的専門技能

問題 3 看護研究における文献レビューの目的について述べなさい。なお、考えられる目的として 3 つ以上の要素を含むこと。（配点 15 点）

問題 4 認知症の人の意思決定支援における看護師によるアドボカシーの重要性について、認知症の特徴やアドボカシーの目的を踏まえて述べなさい。（配点 15 点）

問題5 以下の事例を読み下記の問いに答えなさい。(配点 30 点)

A さん(65 歳、女性)は夫(70 歳)と二人暮らしです。A さんは高血圧と糖尿病の既往があり服薬治療中です。このところ頻繁に動悸と息切れを感じるため受診し、精査したところ、心不全と診断され、薬物療法と同時に日常生活の管理が必要になりました。A さんは「夫は脳梗塞で介護が必要です。夫の夜のトイレは私が付き添わないと危ないので、夜は私もなかなか寝られません。そんな生活だから自分の薬を飲み忘れてしまう。薬の種類が多すぎてよく分からない。今以上に薬が増えたら、きちんと飲むのは無理だと思う。」と話しました。

- 1) 外来看護師であるあなたは、A さんに対する看護介入について、ドロセア・E. オレムの看護理論を用いて検討することにしました。オレムはセルフケア要件について、普遍的セルフケア要件、発達のセルフケア要件、健康逸脱セルフケア要件の 3 つに分類しました。A さんのセルフケア要件について、これら 3 つの観点から、それぞれ 1 つずつ具体的に述べなさい。(配点 12 点)
- 2) A さんのセルフケア行動を阻害する要因を 2 つ挙げ、それぞれの要因に対する具体的な看護支援を 2 つ以上述べなさい。(配点 18 点)

問題6 Malcolm S. Knowles が体系化した成人教育理論(アンドラゴジー)の特徴を 2 つ取り上げ、その意義について述べなさい。(配点 20 点)